vol.566

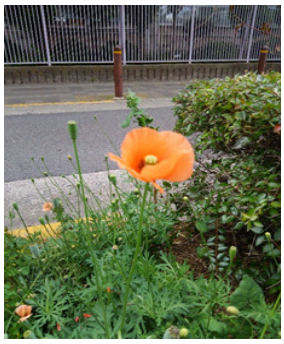
mj "馬は馬力、牛は牛乳、情報はマック"
THE MAC JOURNAL
三菱商事アグリサービス株式会社

◆ 2020年5月13日発行ラインナップ
・増殖中！生育阻害植物
・北海道の現状と白樺花粉症

増殖中！生育阻害植物

最近、田んぼや畑等で見かけるようになった生育阻害植物をご紹介したい。生育阻害植物には駆除か上手に付き合うのか様々な方法があるので参考にしてもらいたい。

○ナガミヒナゲシ



4月中旬から5月にかけて街中の花壇でも見られるようになった外来植物「ナガミヒナゲシ」（写真）。花の特徴も知らなかったので意図的に植えられているものと思っていたがどうも違ったみたいだ。1961年に東京都内で発見されたナガミヒナゲシはアレロパシー活性が強い植物のひとつで全国に急速に拡大を広げており田畑の畦でも見かけるようになった。ちょうど関東以西ではGW頃からオレンジ色の花を咲かせる。ひとつの実に平均1,600粒の種子を持ち、一個体から最大で約15万粒もの種子が生産出来るそうだ。聞き覚えのあるアレロパシー（Allelopathy）とは、植物が根や地下茎から天然の化学物質を出して他の植物や昆虫、微生物に阻害や促進などの作用を及ぼす現象で他感作用ともいう。アレロパシー作用をもつ植物で有名なのは黄色い大きな花をつけるセイタカアワダチソウだ。畑に侵食すると駆除に手間がかかりやっかいものとして悪名高い。ナガミヒナゲシは未熟種子でも再生可能なため防除には開花前の圃場外持ち出しが重要となっている。最近ではこの作用を逆手に取りヘアリーベッチなど、雑草除去作業を軽減し、そのもの自身を緑肥として活用する知恵もある。特定の植物により雑草や害虫を防除する生物農薬としての利用も注目されている。特徴を知って賢く対応したい。

○雑草イネ

コメの品質検査時で最近、故意的なブレンドではなくコメの異品種混入の話が聞かれるようになった。その名は雑草イネ（weedy　rice）。古代米や赤米とは異なり雑草イネとは、栽培を目的として水田に移植あるいは播種された栽培イネ以外のイネで、栽培イネとの競合や収穫物への種子の混入等により減収や品質低下などの雑草害をもたらすイネの総称である。雑草イネは2015年までに19県で発生が確認されており、直播栽培圃場が主であったのだが、最近では移植イネ栽培圃場にも蔓延が見られてきたようだ。また、雑草イネは早生品種から晩生品種まで様々な品種があり1つの圃場で多種見られた例も少なくない。特徴として、出穂後約2週間で脱粒しやすいので注意が必要。また、見た目の草姿や穂の姿（「ふ」に色が付いているものや「芒」があるもの）で見分けが付くものもあるが出穂後の籾色についても栽培イネと見分けがつきにくい籾色をしているものもあり識別困難なものもある。その他の特徴としては玄米色が赤色をしているものが多い。防除のポイントとしては耕種的防除と化学的防除がある。耕種的防除方法は2回の代掻きや栽培イネの遅植えにより、雑草イネの生育を促して先行生育させ識別する方法や秋耕を省略化し種子の死滅率を上げることが有効とされている。また、化学的防除方法として有効な除草剤を利用すること（登録薬剤は初期剤、初中期剤、中期剤と3回散布が必要。）だが、発芽から1葉展開した雑草イネは除草剤が効かないため防除が困難な場合が少なくない。防除出来なかった場合は最終手段として、労力的に非常に大変ではあるが出穂期前にいち早く手で抜き取る方法が一番の方法だ。また、直播栽培では残念ながら有効な除草剤がないため移植栽培や畑に転換することが望ましい方法だ。やはり圃場に持ち込まない、生やさない、増やさない、持ち出さないが基本。詳しくは農研機構、長野県、日本植物調整剤研究協会の雑草イネマニュアルまたは「雑草　イネ　除草剤」で検索、詳細データを入手することをお薦めする。

THE MAC JOURNAL 2020年5月13日号

北海道の現状と白樺花粉

政府は緊急事態宣言を全47都道府県対象に5月31日まで延長することを決めた。医療現場が厳しい状況に置かれていることを踏まえ、6日の期限に解除するのは困難と判断。北海道札幌市の感染状況に至っては、4月に入り医療関係の院内感染や、集団感染が発生し感染者数が増加し続けている。札幌市長は「国内で唯一と言っていいほど感染が拡大していて全国的にみても危機的な状況だ。近い将来、市内の医療機関が機能不全に陥る可能性があると言っても過言ではない。」と述べる程だ。以前は多くの人が集まる街中も人は少なく、快晴だった連休中も、大通公園や地下街、札幌駅周辺は閑散としていた。（写真）

そんな中、道内の農家は作業に追われている。空知管内では「てん菜」の播種作業が始まった。同管内では土壌の物理性を改善し、畑作物全体の収量・品質を向上させる為てん菜を輪作体系の一品目として導入している。今年は融雪が早く昨年より1週間早い作業となっているが、順調に生育し品質と収量が向上するよう好天に期待したい。その他の作物も全体的に順調に作付けが進んでいる。新型コロナウィルスの影響で一部では農繁期なのに従業員を集められず、作付けを見直すなど苦慮しているところもある。また酪農家などでは外国人技能実習生が出入国できず、来日したくても難しく、帰国したくても帰れないなど右往左往の状態となっている。今の状況が長引くと酪農家には空白の期間が生まれ、人手不足による影響は大きいという。今回の事態を受け、帰国が困難な実習生の在留期間を今までの30日から90日にまで延長している。

この時期、新型コロナ対策で自粛生活を続ける中、花粉症が猛威を振るい始めている。北海道はスギ・ヒノキ花粉がほとんど飛散しないが、4月末～6月の期間はシラカバ花粉が多く飛散する。シラカバは本州にはあまり無いが、北海道など一部の地域にシラカバは多く分布している。その為、北海道以外ではあまり馴染みの無い花粉症である。ある日突然シラカバ花粉症になるので、花粉症と気づかず、風邪と勘違いすることもある。症状は鼻水・くしゃみ・目や皮膚のかゆみ、咳、喘息である。シラカバ花粉症の多くが、口腔アレルギー症状・果物過敏症を併発すると言われており、バラ科の食物（りんご・さくらんぼ・キウイ・梨・桃・イチゴ・メロン・柿・プラム）を食べると口の中が痒くなったり喉が腫れたりし、重篤になると呼吸困難になる場合もある。外出時などはマスク着用をしていても衣服などに付着する場合や、部屋の換気の際に入り込む可能性もある為、ウイルスと同様に注意を心掛ける必要がある。

新型コロナウイルスの対策を検討する政府専門家会議は、新規感染者数が限定的となった地域における「新しい生活様式」の実践例を示している。感染症への対策が長丁場となっていることを踏まえ、感染防止拡大と社会経済活動の両立を図る。食事については「大皿は避ける」「対面ではなく横並びで座ろう」「料理に集中、おしゃべりは控えめに」、働き方については「名刺交換はオンライン」「帰省・旅行は控えめに。出張はやむを得ない場合に」「対面での打ち合わせは換気とマスク着用」などが盛り込まれており、衝撃的な内容やすぐに馴染めない内容もある。私たちの生活も少しずつ変化が必要なのかもしれない。（札幌支店）

新型コロナウィルス感染対策の緊急事態宣言が期間延長された為、当社では5月31日まで在宅勤務を基本とした勤務体系を継続することと致しました。受渡や営業活動に制限が掛かる為、皆さまにはご迷惑をお掛け致しますが引き続きのご理解とご協力を賜ります様宜しくお願い申し上げます。

編集事務局：南部、助川
電話：03-5275-5511/E-mail： macjournal@mcagri.co.jp URL http://www.mcagri.jp